

そのカラダのお悩み

腸内フローラ検査で 解決のヒントを見つけませんか？

こんな方におすすめです



お腹の調子が悪い



痩せにくい



ストレスが多い



肌荒れしやすい



食生活が乱れがち



免疫機能の不調

腸内フローラ検査サービス

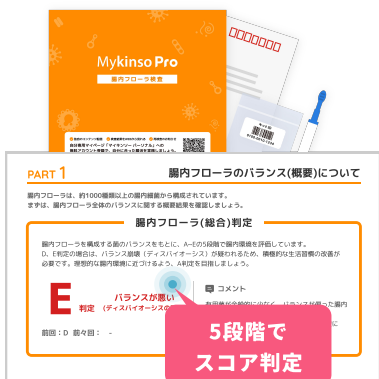
Mykinso Pro

マイキンソープロ

検査実績数
国内トップクラス

累計検体数
10万件以上

マイキンソー管理栄養士による、あなたの腸内環境
に合った食事や生活改善アドバイスつき



あなたの腸内環境を
A~Eの5段階で判定



「腸活ご相談コール」でマイキン
ソー管理栄養士に直接検査結果や
腸活について電話相談ができます

腸内フローラについては
二次元コードから（動画）



検査結果の詳細イメージは裏ページへ

検査費用

14,900円（税込）

PK22

検査のお申込み



医療法人社団 **同友会**

春日クリニック：03-3816-5840 特別ドック部：03-5684-9600
深川クリニック：03-6860-0017 品川クリニック：03-6718-2816

検査の問い合わせ



株式会社サイキンソー

サポートデスク：050-3196-9123

CY24-0002

検査の流れ 自宅でかんたん!

① キットの受け取り



健康診断当日、健診受付にて専用のキットをお受け取りください
(検査を受ける際、受診者ご自身でWEB申し込みが必要です)

② 自宅で採便



ご自宅で検査キットを使い便を採取します

③ ポストに投函



採便したキットを同封の返信用封筒に入れポストに投函します

④ 結果の受け取り



検査結果はWEB閲覧のみとなります
紙での検査結果表は作成いたしません

よくあるご質問

Q 検査を受けられない人はいますか？

A 抗生物質服用中や生理中は採便をお控えください。
抗生物質を服用した場合は、服用終了後、1ヶ月程度期間を空けて採便してください。

Q 検査ができない便の状態はありますか？

A コロコロした固い便や、水のような水様便でも検査は可能です。できるだけいつもと同じ状態の便を採取していただくことをおすすめします。

Q どのくらいの頻度で腸内フローラを調べばいいですか？

A 半年に1回～1年に1回、再検査することが望ましいです。

Q 前日の食事の影響はありますか？

A 前日の食事などはほとんど影響を及ぼしませんので、日頃の食生活のまま検査をしていただくことをおすすめしておりますが、健診受診前の飲食制限はお守りください。

検査結果レポートイメージ (一部抜粋 ※全8ページ)

腸内フローラ判定

腸内フローラバランスを5段階で評価します。

腸内フローラ(総合)判定

腸内フローラを構成する菌のバランスをもとに、A-Eの5段階で腸内環境を評価しています。D、E判定の場合は、バランス改善(ディスバイオシス)が疑われるため、積極的な生活習慣の改善が必要です。理想的な腸内環境に近づけるよう、A判定を目指しましょう。

E判定 バランスが悪い
判定 (ディスバイオシスの疑い)
コメント
有用菌が全体的に少なく、バランスが崩れた腸内フローラです。
生活習慣を改善して、3ヶ月～半年後を目安に再検査をおすすめします。

2種とも豊富 1種のみ不足気味 2種とも不足気味
コメント
ビフィズス菌(酢酸産生菌)が不足気味です。
p.4の個別注目菌の結果を確認しましょう。

健康長寿菌判定

元気な高齢者の方に多い菌を3段階で判定します。

疾患別リスク判定

糖尿病、高血圧、大腸がんなどの腸内フローラからみた疾患リスクがわかります。

機能性下痢 (IBS)



前回: 低 前々回: -

コメント

腸内フローラのバランスから見た、機能性下痢(IBS)のリスクは低いと考えられます。
引き続きp.5のような生活習慣を意識しましょう。

カテゴリ	検査項目	腸内(検出レベル)	結果(割合)	前々回	前々回	判定(良好)
酪酸産生菌	ファンケルバクテリウム アキエロステファノス クロストリジウム		9.24%	8.67%~		
	酢酸産生菌	ビフィズバクテリウム (ビフィズス菌)	1.17%	2.79%~		
プロピオン酸産生菌	ディアルスター		0.00%	0.02%~		

有用菌/要注意菌の割合

良い働きをしている有用菌や、悪い働きをしている要注意菌の割合がわかります。

改善アドバイス

不足している有用菌の増やし方や、要注意菌の改善方法などがわかります。

個別注目菌 (有用菌)

改善ポイントトップ3

p.4の個別注目菌(有用菌)の結果を改善するために、あなたにとって特におすすめの、具体的な改善実践方法やアドバイス上位3項目です。

1 果物の摂取

果物には、腸内細菌のエサになる水溶性食物繊維や糖アルコールが含まれています。特に旬を迎えた果物は、栄養価が高い傾向にあります。1日1品の果物が理想的な習慣です。

この生活習慣で改善できる菌

- アクティブ菌 (ラクノスピラ)
- やせ菌 (クリステンセネチ科)
- アクティブ菌 (ロゼリア)
- アクティブ菌 (モノグロバ)

2 運動

適度な運動は、自律神経に良い影響を与え、排便に必要な筋肉作りにも繋がります。マイキンソーデータでは、週に60分以上運動している人は注意菌が安定傾向にあります。

この生活習慣で改善できる菌

- やせ菌 (クリステンセネチ科)

お申込み前にご確認ください

- 本検査は健康保険組合や事業所の補助の対象外で全額窓口精算です。
- 検査キットお渡し後の返品・返金については対応出来かねますので予めご了承下さい。
- 本検査の対象は日本在住の16歳以上の日本人です。前述以外の方でも検査を受けることは可能ですが、結果は参考値であり、サポートも対象外となります。
- 申し込み後は、WEBにて手続きがごさいます。
- 最終検体受付日は、受診日から2カ月後(必着)とさせていただきます。